

令和5年度 第3回図書館協議会議事録

1 開催日時 令和5年11月29日(水) 午後2時～午後4時

2 開催場所 榛原文化センター3階 会議室

3 出席者

【牧之原市図書館協議会委員】

鈴木 善彦
増田 曜子
岩崎 陽子
大石 武晴
佐藤 寛
柴本 久美子
武田 てるみ
水嶋 みゆき

【事務局】

教育長 橋本 勝
教育文化部長 内山 卓也
社会教育課長 永野 智芳
図書館係長兼図書館長 八木 いづみ
主任 水野 秀信
主事 望月 安里
会計年度任用職員 芹澤 芳里

4 傍聴者 2名

5 議題

【報告事項】

榛原図書館改修工事の進捗について

【協議事項】

第2次牧之原市立図書館基本計画修正案について

6 内 容（要点記録）

教育長挨拶

コロナが落ち着き、秋祭りや産業フェアなど活気が戻ってきたように思う。本日から牧之原市議会の11月定例会が始まった。議題の中には名称変更のため、牧之原市立図書館条例の一部改正も含まれている。文化センター1階を通る際に改修工事の様子を見かけた方もいるかと思うが、生涯学習等で2階を利用している方も4月のオープンを心待ちにしていることと思う。本会議では改修工事の進捗とともに第二次牧之原市立図書館基本計画の修正案を協議いただきたい。

【報告事項】

榛原図書館改修工事の進捗について

◎事務局説明要旨

議案の報告の前に、移動図書館ひまわり号において臨時運休が発生したことを報告する。10月11・12日に物損事故の修理期間として、11月14・15・22日に運転手の確保ができなかったため、それぞれ臨時運休となった。ひまわり号運休中はコンテナに本を詰めて、軽ワゴン車で巡回先への貸出対応をした。

改修工事の進捗については現在終盤である。協議会でもご意見をいただいた収蔵冊数の増加や、利用者の使いやすさを反映させてエリアごとの面積が確定した。一階全体は636.15㎡。一般108㎡、児童96㎡の合計約200㎡の開架エリアに加え、展示エリアにも棚を配置、本の収蔵をする。学習スペースも含め図書館の機能を一通り揃えた。

◎委員からの主な意見

（意見）ボランティアによる花壇の整備について、4・7・8・9月にワークショップを行ってきた。次回は12月16日に植付作業も行う予定である。図書館に行って花壇を見てもらえるよう、また、花関連の資料を展示するなど花壇をきっかけとして図書館に来てもらえるようになるとよい。

（意見）平面図を見るとパーゴラからは花壇に出られないが動線はあるのか。

（事務局）動線はなく、工事の対象外である。

（意見）館内は死角が多い構造をしている。事故などがあってはならない。事故を防ぐ工夫などはあるのか。

（事務局）防犯用のカメラ設置を予定している。図書館はトラブルの起きやすい建物だと感じている。マナーの注意等も日常的にある。利用者同士が喧嘩するトラブルもあった。カメラは抑止力になるが、職員の見回りも重要だと考えている。

（意見）子どもが連れ込まれる等の危険が考えられ、人員確保を望む。

【協議事項】

第2次牧之原市立図書館基本計画修正案について

◎事務局説明要旨

基本計画素案について9月の図書館協議会で意見をいただき、修正案を作成した。年明け1月にパブリックコメントの募集を予定している。素案から主に変更した点は以下のとおり。

- ・第1章「計画の期間」で7年間の計画を前期3年、後期4年とし、表に示している。
- ・第2章「図書館の現状」に統計データを記載した。「各館の特長」は記述を増やし、さらに図書館間ネットワークという形で整理した。「図書館基本計画の検証と展望」ではアンケートの結果を整理して入れ込んだ。アンケートの結果全体は巻末に残している。
- ・第3章はまず基本理念を冒頭で明記し、大切なものとして目立たせる形としている。
- ・第4章「具体的な取り組み」は素案で運営と図書館サービスで分けていたが、今回は3章の基本方針と揃え整理及び追加し、22項目に分けた。
- ・各種資料の中に牧之原市立図書館条例及び図書館条例施行規則を載せた。なお、条例や施行規則は今年度中に改正する予定があるため、来年度には新しい条例・施行規則に差し替える。

◎委員からの主な意見

（意見）素案協議の際に、「教育委員会による運営」の文言を希望していたが、今回は入っておりよいと思う。

（意見）蔵書数については意見が反映されていないように思う。4章3「資料の継続的な収集」では10万冊以上を維持とあるが、7年間の計画であることを考えると12万冊としてほしい。また人員の確保については理由や効果を文言として明記し、より人員確保を押し進めてほしい。

（意見）7年間の計画を前期3年、後期4年で分けた点も含め改善点が多く評価できる。

（意見）1章3「計画の期間」の表にも市教育振興基本計画を入れて、前期と後期で分けた意味づけがわかるようにしたら良いと思う。

（議長）大きな総論、例えば計画の構成、配置、アピール性、表記等といった骨格になるような全体的な点で意見があればまず伺いたい。その次に各論に入っていきたい。

（意見）2章「図書館の現状」の棒グラフは令和4年度までの実績のみの表となっている。中間見直しの令和8年度までの目標値を入れてはどうか。

（事務局）2章2「図書館の現状」では、過去だけではなく今後の見通し・目標値を合わせてみえることで、どう変化するかがわかるので入れるようにしたい。

（意見）4章の具体的な取り組みではほぼ全体にわたって目標値が記述されている。場合によっては入れ込む必要もあるかと思うが、すべての項目に目標値を入れるべきかどうか改めて検討してほしい。

(事務局) 目標が不要な部分がある点について、具体的にどれが要らないか合わせて伺い、修正していきたい。

(意見) 教育振興基本計画を見ると、図書館の機能の充実に関する取り組みなどの目標は満足度で示している。図書館の基本計画においても、生涯学習の提供やイベント開催などの目標値は、回数でなく満足度で表してもよいのではないか。

(意見) 郷土資料の年間増加数 50 点とあるが、年度によって出版点数にも差があり、50 点以上という設定根拠は適切ではないように思う。

(議長) 内容と目標という作り方について意見はあるか。

(意見) 無理に目標を書き出しているように感じる。

(意見) 作りについて標記の仕方、バランスなどを検討してほしい。

(意見) 「図書館を取り巻く状況」について、一般的な国や県に関する図書館の動向なのか、牧之原市の図書館の動向なのか、混同しわかりづらかった。

(意見) 「図書館の現状と課題」の記述は、我が国ひいては世界の図書館が直面する現状・課題が書かれており、読み手に違和感や難しさを感じさせるかと思う。これらを記述するなら、牧之原市の図書館としてどう関わっていくのかがあった方が活きるのではないか。

(意見) 個別に書き出す際には、図書館の現状と課題にある文章を入れたらよいのではないかと思う。

(意見) SDGs 等、目標を掲げるなら、具体的な落としこみをしていけば活きるのではないか。あえて記述せず個人の中で考えてもらうという方法もある。

(意見) 資料として入れる形にして、市の現状と対応を記述してもよい。

(意見) 地域や市ならではの文言も出てくるとよい。

(意見) 市としてどうかかわるのか、どう具現化するのか、リード文で牧之原市との結びつけをするのか、教育委員会の方でも再度検討してほしい。

(事務局) 内部でも再度検討していきたい。

(意見) 榛原庁舎の駐車場は多くの利用があり、イベントの日は駐車場がすぐ埋まり図書館の来館者が止められない事もある。子どもたちも来るので駐輪場も含めて確保して欲しい。

(事務局) 図書館だけの駐車場を確保するのは難しく、車の駐車スペースは基本計画の中に入れるまでは考えていない。

(議長) 前回来館の難しい利用者へ対応が議題に上がったが、今回意見はあるか。

(意見) コミュニティバスがあれば、利用がみこめるのではないかと思う。

(意見) 子どもたちも図書館に行けるよう、交通についても充実させてほしい。

(事務局) 子どもたちにも多く利用して欲しいと思っている。利用の仕方は、図書館サイドだけでは解決しないようにも思う。学校と協力していきたい。

(意見) 4章「市民協働の図書館づくり」で読書活動を推進する市民団体「よも一ね！マキノハラ」の記述があるが、この他にも広く市民団体と協働する文言を入れてほしい。

(意見) 2章の「格差と貧困」の「図書館未利用者の来館を促す方策として貧困をなくすため」とあるが、大きすぎる言い方ではないか。

(事務局) 金銭的な貧困だけでなく精神的な意味合いでも使用していた。検討したい。

(意見) 2章「中長期的な展望」で「義務教育学校を整備する計画を進めている」とあるが、基本計画に載せるのは現段階では早いのではないか。

(事務局) 相良・榛原地区に整備する計画は教育委員会で議決しており、方向性は決まっている。表記については問題ないと考えている。

(意見) 残った学校施設を図書館にするとも受け取れた。あり方ではなく「図書館施設整備網」について検討するといった文言にしたらどうか。

(意見) 市の展望の記述が不足しているように思う。具体的に書いてほしい。

(意見) 例えば建物が新しくしなければならぬ時が来た際には、そこから考えるのでは遅すぎるため、早めに将来の展望を積み立てておかななくてはならない。

榛原図書館の整備が完了したら即座にとりかかるべきだと思っている。

(意見) 「新設の図書館」という表現をよくされているが、書く必要があるか。

(意見) 他の町のパブリックコメントで“～に努める”という表現を使用しないでほしいという意見をいただいたことがある。“努める”だけではやれないことも多い。

(事務局) 表現の仕方は難しさがあるが、先を見据え出来る限り前向きな表現にしたい。

(意見) 2章「図書館の現状」で、面積、開館日数等を乗せるのであれば、貸出冊数、資料費、職員数も入れてほしい。

(事務局) 貸出冊数は次ページにある、職員数等は検討する。

(意見) 2章「各館の特長」で、ひまわり号は1か月に一度の巡回とある。人員等の関係があるとは思いますが、4章のひまわり号の記述も合わせて、巡回回数や巡回期間の見直しを入れたらどうか。

(事務局) 図書館は貸出期間を二週間としているが、ひまわり号の貸出は長い間貸出ができる。現状は一か月に一回の巡回であり職員側も運用上使いづらい部分がある。二週間に一回の巡回は、課題はあるもののサービスの拡大としては良いかもしれない。

小学校の目線から一か月に一回の頻度はどう受け取られているか伺いたい。

(意見) 借りる子どもからすると足りない印象があるが、個人差もあると思う。

(事務局) 学校との調整もあり、今後の検討課題としたい。

(意見) 4章1(3)「資料の継続的収集」で「多様な情報」とは、SDGsや障害者、多文化サービスなど多様な資料の継続的収集ということでよいのか。もしそうであるなら、冒頭に「多様な」と付け加えた方がよいか。また違うのならば内容には具体的に障害者・多文化・高齢者、電子資料など資料種別を明確にしてほしい。

(意見) 以前も年度ごとの資料費の増減については改善してもらいたいという意見が出ている。継続的、安定的という文言は大事である。指摘されている多様な資料収集については、多様なニーズを踏まえた上で資料収集をしてほしい。

(事務局) 本市では、まず図書館に来てもらいたい、図書館サービスがあることを知ってもらいたいという狙いから電子書籍ではなく紙媒体で館図書館の整備を優先した。図書館アンケートでも電子資料を求める声が多くなかった。ニーズとしては今のところは多くないと判断し優先順位を下げた。

(意見) 多様な資料を頭につけるといいう意見について事務局はどうか

(事務局) 必要であると考えている。

(意見) 二行に分けたらどうか。一つは継続的に、一つは多様な資料として、社会の流れの中で障害者や高齢者などニーズに合わせた資料収集する形にしたらどうか。数値も入れるのであれば、購入冊数等も入れやすいように思う。

(意見) タイトルとの整合性が問題になるかと思う。タイトルと本文中に「多様な」という文言が重なるがどうか。

(事務局) 多様性に関しては、基本計画本文中の4章「多様性と包摂性の推進」で障害者、高齢者に読みやすい資料の収集に触れている。電子書籍に対してはまた文言を入れるか検討する。

(意見) 4章2「であいを作る交流憩いの場」、その項目の(3)が「ダイバーシティと包摂性の推進」となっている。この4章2の項目では施設の面と資料の面が一文になっている。資料の面を3章(3)に持っていき、分けたらどうか。

(意見) 「(3) 多様性と包摂性の推進」では資料の種類が表記されている。資料の多様性にもつながる記述かと思う。4章1(3)に移したらどうか。

(意見) 文章の項目の流れから、資料については別が良いかと思う。4章2を交流の場とするのは良いと思う。むしろ場とするなら、障害者用の車イスでも利用しやすい配置や書架の高さの見直しなどの、施設面からみて交流しやすい場の設定の記述が良いか。また、外国語資料などは書いてあるが、施設面での交流憩いの場の方向での配慮はされているのか。施設と資料が混在されているように見られる。

(事務局) 資料については専門サービスで分ける方向で整理したい。

(意見) 4章3「あなたと図書館をつなぐネットワーク」の「(9) 移動図書館ひまわり号」について、遠い人たちへの閲覧・貸出を考えると、4章1「暮らしを支える専門サービス」に持ってきたらどうか。同じく「(10) 市民の図書館利用推進」についても基本的な機能であるため、4章1で良いように思う。

(意見) 4章1「暮らしを支える専門サービス」が7項目あるのは大きいと思う。3章の基本方針で「子どもの図書館利用を推進し、生涯にわたる読書利用を支える」とあるが、子供について言及されていない。4章の8項目目として入れたらどうか。学校図書館連携ともまた少し違うと思うので、子どもに対して、また障害者・高齢者、YAに

対しての読書推進として、一項目入れたい。

(意見) 4章1「暮らしを支える専門サービス」で(1)「安定した図書館サービスを提供できるよう司書資格を有する職員を確保」を「充実した図書館サービスを提供できるように司書資格を有する職員を確保し、安定した図書館サービスができる様に適正な人員配置に努める」のようにしたらどうか。

(意見) 人員配置は細かい意見であるが、内容としては大切である。充実と安定の文言を入れることで司書と人員を整えられるよう教育委員会で検討してほしい。

(意見) 専任館長を配置できるように努めるとあるが、“努める”ではなくはっきりした文言にしてほしい。冒頭で蔵書冊数12万冊も含めて改めてお願いしたい。

(意見) 図書館の現状で職員数に関する項目を追加してほしい。職員は司書資格の職員や外部からの委託職員などあるが、どのような記載をしてもらえるか伺いたい。

(意見) 人事的な事であるが専任職員の配置は以前からお願いしていた。専任職員は重要なことで7つの提言以来一貫した市民の要望であり、ぜひ実現を期待したい。努めるという言葉を使うなら実現してほしい。

(意見) 司書資格を有する職員とそれ以外の職員につき、サービスや安全につながる必要な数をそろえてほしい。榛原図書館に関しては、難しい部分もあるかと思うが良い図書館を作ってほしいという思いから人の配置もお願いしたい。

(事務局) 来年度の組織や人事は動き出している。内部だけの要望要求では通らない現状もある。上には協議会や市民の声を上乘せして熱い思いをのせて要望している。

市としては、大河ドラマの田沼関連も全庁体制で取り組んでいる。観光や学校の整備もあるが図書館のソフト面の充実には人は欠かせず、努力はしていきたい。

(意見) 今回巻末に貴重な資料が多く乗っている。資料の中にあるアンケートで、大事にしてもらいたい点を盛り込む作業。例えば2章3にある図書館の課題と検証ではアンケート結果で出たことである。計画策定の際にアンケート結果を盛り込むよう考慮されたのか。

(事務局) 今回のアンケートは来館者のみでなく利用されていない人も回答してくれた貴重なものである。具体的な取り組みの中でもアンケートは意識している。アンケートは定期的に行い図書館サービスに反映させていきたいと思っている。

以上